

## 緊急提言

2011年3月16日  
防災科学技術研究所客員研究員  
佐藤 隆雄

### 前文

事態の推移を見守っている状況ですが、被災地大船渡出身者として、また、防災研究に携わってきたものとして、ご提言を申し上げます。

地震災害と津波災害は、全く違います。地震災害の場合は、家が壊れても、中には使えるものがあつたりします。また、停電しても、すべての電柱が倒れる訳でもなく、変電所も全てが壊れる訳ではありません。したがって、比較的早く復旧します。鉄道なども、曲がりくねったりはしますが、路線そのものは残ります。しかし、津波の場合、全て根こそぎ浚われてしまいますので、何も残らないのです。電話が繋がらないという声が多く聞かれますが、これは、多くの人が電話を使うため、錯綜していると言いますが、そうではないのです。アンテナを初めとして、通信機器そのものが破壊されており、通信途絶の状態にあるからなのです。ですから、対応としては、衛星電話などを早急に配ることが重要なのです。現在NTTが特設電話を数台づつ敷設し始めたので、現地では、1人3分以内で、安否情報を伝えていますが、それでも2時間以上並んで漸く順番が廻ってくる、という状況です。また、断水も深刻です。それと、寒さです。暖を取る手立てがありません。カイロや毛布など、早急に届ける必要があります。食料も不足しています。燃料はプロパンなので、ボンベやコンロを送れば、暖かいものも食べられます。空輸で届ければ済むことです。さらには、発電車も配置する必要があります。明かりがあるだけで、避難者はホッとします。もうすぐ、1週間にもなろうと言うのに、このような対応ができていない政府の対応は大問題だと思います。

何度も言いますが、震災とは違うのです。何もかも無いのです。仙台を除けば、もともと、この地方は車社会です。何をするにつけても、車がないと成りいきません。ガソリン不足が伝えられていますが、当然なのです。ガソリンスタンドも流されているのですから・・・これも、各被災地に給油車を直ちに配備すべきです。

高齢者の多い地域です。常備薬も無いと思います。各避難所に医師を派遣し、不足している薬など、現地の情報を一刻も早く中央に届けられるよう、臨時の通信設備を設置し、空輸等で対応すべきです。今の状況ですと、2次被害が発生する恐れ大です。

それから、各地のボランティア団体が先遣隊を派遣していますが、関西や関東方面から行っている部隊が多く、宮城で活動している状況です。ボランティア団体もお互い連絡を取り合い、岩手の各地にも入るよう調整して欲しいものです。さらには、ガソリン不足から、駆けつけたボランティア団体が、地元で迷惑が掛からないようにと、撤退する状況や、マスコミを通じて、自粛するよう呼びかけているのは、本末転倒です。こうした方々の支援が、的確に、かつ、効果的に活かされるように、手を打つとともに、広域オペレーションのヘッドクォーターを、政府の災害対策本部がしっかりと行うべきです。関係各位のご検討を強く望むものです。

大船渡市は私の故郷であり、実家もあり、兄の家族7人がいますが、命だけは無事と言



〒305-0006 茨城県つくば市天王台3-1  
Phone : 029-863-7553 Fax : 029-863-7541  
E-mail : [t-sato@bosai.go.jp](mailto:t-sato@bosai.go.jp). URL : <http://risk.bosai.go.jp>

東京経済大学講師

技術士事務所 安全・安心な社会創造研究所 代表

技術士（建設部門：都市及び地方計画）

〒330-0856 さいたま市大宮区三橋1-1247-4

Phone&Fax : 048-646-0551

E-mail : [sato@arecss.jp](mailto:sato@arecss.jp). URL : <http://www.arecss.jp>

災害復興まちづくり支援機構 事務局次長 URL : <http://www.i-drso.jp/>

関西学院大学復興制度研究所 客員研究員

文科省「首都直下地震防災・減災プロジェクト」研究員

神奈川県公共事業評価委員会委員

日本技術士会防災支援委員会委員

財：地域活性化センター 地域づくりアドバイザー

☆☆